

問1 群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 奈良公立入試 類似）

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。 | 2. 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。 | 3. 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。 | 4. 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。 |
|--|--|---|---|

問2 幕末にアメリカのペリーが来航した浦賀や、日米修好通商条約によって開港が決められ、その後の日本で最大の貿易額を誇る港へと発展した横浜が位置する都道府県として正しいものを選びなさい。（2016年 山口公立入試 類似）

- |        |        |         |        |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 東京都 | 2. 千葉県 | 3. 神奈川県 | 4. 静岡県 |
|--------|--------|---------|--------|

問3 群馬県などの北関東や東海地方の工業都市では、南アメリカ出身の在留外国人が多く生活しています。これらの地域で、公共施設の案内板や広報誌が「日本語」と「ポルトガル語」で併記されている主な理由として、最も適切な説明はどれですか。

（2018年 鳥取公立入試 類似）

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 1990年の入管法改正によって就労制限のない日系人の受け入れが始まり、ブラジルからの労働者が工業地域に定住したため。 | 2. 技能実習制度の拡充により、農業や漁業の技術を習得するために南アメリカ諸国から多くの若者が来日したため。 | 3. 経済連携協定（EPA）に基づき、看護師や介護福祉士の国家資格取得を目指す東南アジア出身者が急増したため。 | 4. 高度経済成長期に、石炭から石油へのエネルギー革命の影響で失業した海外の炭鉱労働者を積極的に受け入れたため。 |
|---|--|---|--|

問4 2021年の千葉港の貿易統計において、輸入額全体の約54.5%を石油が占めている一方で、輸出額の上位には石油製品（30.6%）や鉄鋼（21.0%）が並んでいます。このような貿易品目の構成から判断できる、千葉港の港湾としての性質として最も適切なものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 周辺の京葉工業地域において、輸入した資源を加工し製品として出荷する役割を担う工業港 | 2. 近隣の成田国際空港と連携し、電子部品や精密機械を世界各地に送り出す航空貨物の中継港 | 3. 首都圏の膨大な人口を支えるために、海外から食料品や衣類を大量に輸入する商業港 | 4. 日本各地で生産された自動車を海外へ輸出することに特化した、自動車専用の輸出港 |
|--|--|---|---|

問5 群馬県などの北関東地域では、1970年代以降、内陸部での工業生産額が大きく伸びました。また、農業面においてもキャベツなどの生産が盛んに行われています。これらの産業が発展した共通の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 岡山公立入試 類似）

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 高速道路などの交通網の整備により、工場への部品搬入や、新鮮な農産物の都市部への迅速な輸送が可能になったため | 2. 大規模な港湾施設の整備が進んだことで、海外から安価な原材料を直接輸入し、大量の製品を輸出できるようになったため | 3. 古くからの伝統工芸の技術を現代の機械工業に応用し、地域独自の特産品をブランド化することに成功したため | 4. 新幹線の駅が各都市に設置されたことで、都市部からの労働力が確保しやすくなり、サービス業が中心の産業構造に変化したため |
|--|--|---|---|

問6 ある地域の地形図を確認したところ、中央を流れる河川の橋を起点に、南東側には複雑な路地を持つ古い市街地が広がり、一方で河川を渡った北西側には、学校の記号や屈曲した道の先に公共施設が点在していました。このような地形図から調査経路を特定する際、最も重視すべき読図の方法はどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）

- |  |   |                                      |   |
|--|---|--------------------------------------|---|
| 1. 橋、学校、道路の形状などの地点情報を組み合わせ、周辺の建物密度から土地利用の変化を読み取る | 2. 等高線の間隔から土地の傾斜を計算し、最も標高が高い地点を調査の起点として設定する | 3. 縮尺を利用して地点間の直線距離を測り、最短ルートを機械的に導き出す | 4. 地図上に示された植生記号のみを頼りに、森林や田畑の境界線を調査経路とする |
|--|---|--------------------------------------|---|

問7 群馬県などの標高が高い地域では、夏の涼しい気候を利用してキャベツなどの生産が行われています。このように、他の産地の出荷量が減少する夏季に、収穫時期を遅らせて市場へ大量に出荷する栽培方法を何といいますか。（2019年 新潟県公立入試 類似）

- |         |         |         |        |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 抑制栽培 | 2. 促成栽培 | 3. 近郊農業 | 4. 二毛作 |
|---------|---------|---------|--------|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。	内陸型工業の最大の特徴は、道路網の発達を背景に、交通の利便性が高い場所に立地することです。特に、部品の調達と製品の出荷が頻繁に行われる自動車工業などでは、高速道路のインターチェンジ付近に工場を建てることで、物流コストを抑えつつスムーズな生産体制を築いています。これに対し、臨海部に立地するのは鉄鋼業や石油化学工業などの重化学工業であり、内陸型工業とは立地条件が異なります。
問2	<b>答え 3</b> 神奈川県	1853年にペリーが来航した浦賀（現在の横須賀市）や、開国後に生糸の輸出などで日本最大の貿易港となった横浜は、いずれも現在の神奈川県に位置しています。この地域は江戸幕府のお膝元である江戸に近い要衝として、日本の開国と近代化において中心的な役割を果たしました。
問3	<b>答え 1</b> 1990年の入管法改正によって就労制限のない日系人の受け入れが始まり、ブラジルからの労働者が工業地域に定住したため。	日本の製造業における労働力不足を補うため、1990年に入管法が改正され、日系ブラジル人などが日本で働くことが容易になりました。彼らが自動車産業などの工場が集まる地域に集中的に住むようになったため、生活支援の一環としてブラジルの公用語であるポルトガル語での情報提供が重要視されるようになりました。
問4	<b>答え 1</b> 周辺の京葉工業地域において、輸入した資源を加工し製品として出荷する役割を担う工業港	千葉港は京葉工業地域の中核に位置しており、エネルギー資源である石油や液化ガスを輸入し、それを加工して石油製品や鉄鋼として輸出するという、重化学工業に特化した「工業港」としての特徴が非常に強いのが特色です。統計上も輸入の過半数が石油であり、輸出の上位を工業製品が占めていることから、この産業構造を読み取ることができます。
問5	<b>答え 1</b> 高速道路などの交通網の整備により、工場への部品搬入や、新鮮な農産物の都市部への迅速な輸送が可能になったため	北関東（群馬・栃木・茨城）では、1970年代以降に高速道路などの交通網の整備が進みました。これにより、地価が安く広い用地が確保できる内陸部への工場進出（北関東工業地域）が加速しました。農業面では、この交通網を利用して、高冷地などの涼しい気候で育てた新鮮な野菜を、大消費地である東京圏へ短時間で届けることが可能になり、産業全体の活性化につながりました。
問6	<b>答え 1</b> 橋、学校、道路の形状などの地点情報を組み合わせ、周辺の建物密度から土地利用の変化を読み取る	地形図を用いた地域調査では、橋（構造物）、学校（地図記号）、道路の屈曲（形状）といった「目印」となる情報を正確に特定することが不可欠です。また、建物の密集度や路地の形状から、そこが「古い歴史を持つ地区」なのか「新しく開発された地区」なのかといった土地利用の背景を読み取ることで、調査の目的（歴史的景観の確認など）に合致した正確な経路特定が可能になります。地形図は単なる距離の測定ではなく、情報の相関関係を捉えるために活用されます。
問7	<b>答え 1</b> 抑制栽培	高冷地の涼しい気候を活かし、他の産地の出荷が少ない時期に収穫・出荷を合わせる方法を抑制栽培と呼びます。これに対し、宮崎平野や高知平野で見られる、温暖な気候を利用して出荷時期を早める方法は促成栽培であり、混同しないよう注意が必要です。群馬県の嬭恋村などはこの抑制栽培の代表的な産地です。